

環境対策を先導する樹木のような新庁舎

CO₂排出量が45%以上削減されます

最新の環境技術を積極的に導入し、わが国の環境対策モデルとなるような環境庁舎を整備しました。

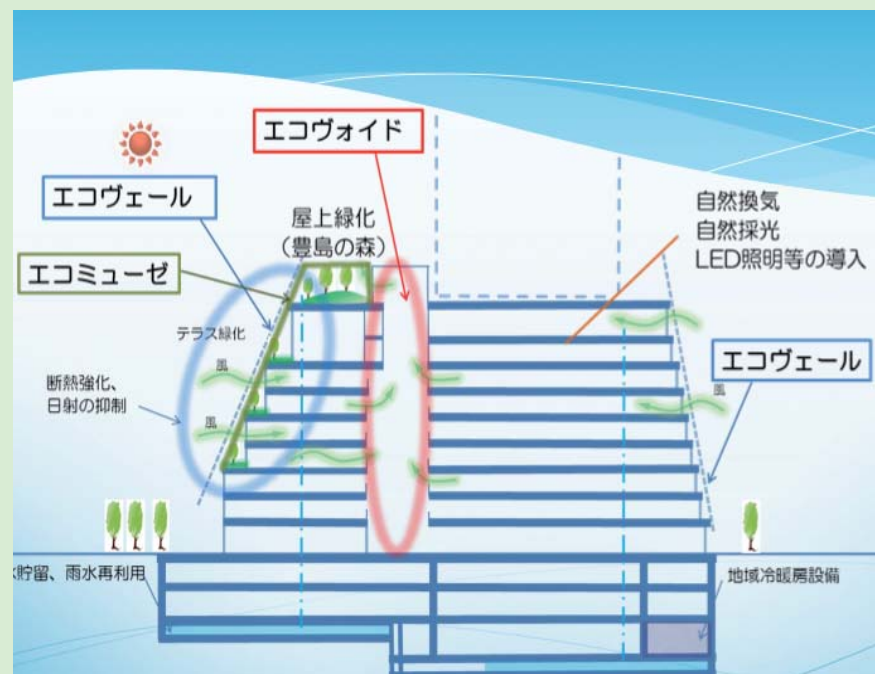
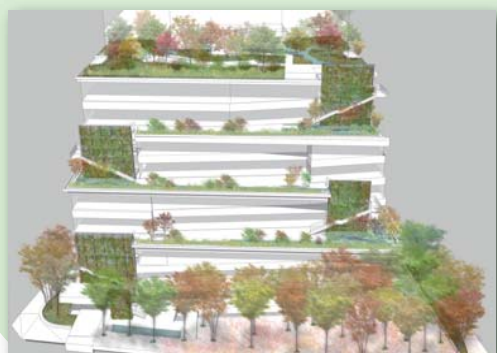
環境対策について、建物の設計者に語ってもらいました。

豊島区の掲げる「環境都市づくり」を象徴する「環境対策を先導する環境庁舎」をめざしました。区民に親しまれる緑豊かな環境を創りつつ、太陽光発電、自然採光、エコ照明、雨水利用による水循環システム、地域冷暖房システムの導入など、環境技術を積極的に取り入れています。その結果、従来の建物に比べ、庁舎部分でCO₂排出量を45%以上抑えることができます。

株式会社 日本設計 六鹿 正治



エコミューゼ 外観(秋)



エコヴォイド 1F~9F吹き抜け空間



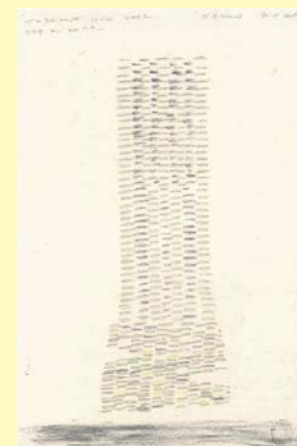
設計チームの英知を結集して、計画の推進に取り組みました。左から、高野豊島区長、隈研吾氏、六鹿正治氏、平賀達也氏。

エコヴェール 外観



エコヴェールは、太陽光発電パネル(庁舎部741枚・最大発電量57kw)、緑化パネルなどで構成されています。

新庁舎の設計の柱エコヴェール・エコヴォイド・エコミューゼ



樹木のような庁舎を考えました。樹木の木の葉のように建物を覆う、エコヴェールは多様な機能を持ち、新庁舎にふさわしい新しいシンボルとなります。エコヴェールを構成するパネルは、大きな建物をヒューマンスケールに分解して、街になじませます。また、池袋駅と新庁舎をつなぐグリーン大通りの多様な並木と呼応する外観デザインとすることで、都市と連続する景観をつくります。

エコヴェールと一体となって緑の都

市景観をつくるエコミューゼでは屋上、テラスに豊島の森を再現し、区民が自由に使えるスペースになります。

また、庁舎内部には自然採光と自然換気を可能にするエコヴォイドと名付けた大きな吹き抜けを設けています。

新しい庁舎は、区民サービスの向上はもちろん、都市景観や環境にも配慮した豊島区発展の起点になります。21世紀の庁舎のあり方にふさわしい環境庁舎として機能します。

隈 研吾

豊島区の優れた環境を、次世代につなぎ育てるための場をつくるのが大切だと考えました。地域の環境を象徴する広場や屋上は、自然環境や気象環境を緩和するだけでなく、貴重な生態系をつなぎ保全する「豊島の森」、「豊島エコミューゼ」として整備されます。施設の運営そのものが自然を取り入れた快適で健全なライフスタイル実践の場となり、防災・健

康・環境などに軸足を置いた区民活動の拠点として、地域や家庭での取り組みを支援し、多様な自然とふれあえる憩いや学び場となることをめざしています。

「豊島エコミューゼ」から発信される小さなアクションが世界を動かす大きな変化につながっていく。それが私たちの提案に込めた願いです。

株式会社 ランドスケープ・プラス 平賀 達也